

協和DXビジョン

NKS全体最適化 ～入口から出口まで～

経営ビジョン

経営理念 「よろこびと生きがいの実現」

行動指針

1. ユニバーサルジョイントのグローバルな普及を目指し日々チャレンジする。
2. いつも「三方よし」を念頭に「三つの開発」を推進する。
3. 「NKS」実践のため進んでコミュニケーションと「たすけ合い」をする。

当社は製品の開発から冷間鍛造、機械加工、熱処理、表面処理、組立から評価試験まで一貫して行っており、1980年代に入っていち早く生産管理システムを導入しました。当初は製品数も少なく、業務の標準化により大きな効果を得る事ができました。

しかし、製品のモジュール化や業務の拡大により徐々にシステムが機能しなくなり補完的に各自がパソコンを使用する事になり、業務の属人化が進んでいきました。そのため、調べる、問い合わせをする、入力する等々、価値を生まない業務がまん延し全体最適化へのネックになっていました。

経済のグローバル化が進む中で、企業の競争力を向上させていくためにはリアルタイムな経営判断ができるIT活用システムを構築する必要があります。そのため伝統的な製造業の常識に囚われないIT業者とコラボレーションし、独自のビジネスモデルを作り上げます。



代表取締役社長

鬼頭 佑治

DX基本方針

DX推進にあたっては、単なるデジタル化ではなく、次の内容を基本とした上でデジタル・IoTを活用した業務改革を進めることで、業務の付加価値を高め、QCDSEに対して競争力ある企業を目指します

活動基本方針

NKS全体最適化 ～入口から出口まで～

活動のキーワード

「リードタイム」

- ・業務は標準化され、リードタイムの限りなき追及を目指しているか。

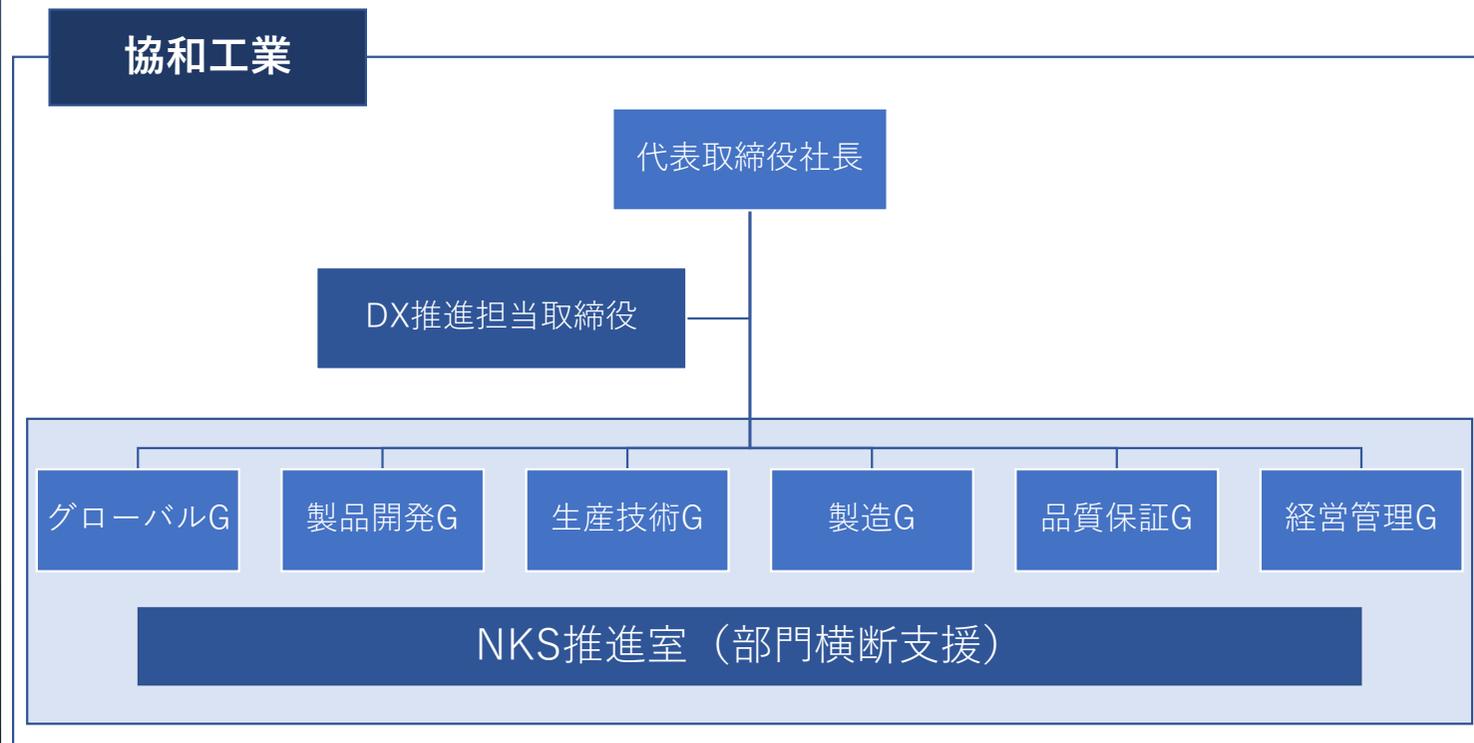
「リアルタイム」

- ・正しい情報をリアルタイムに処理・共有できているか。

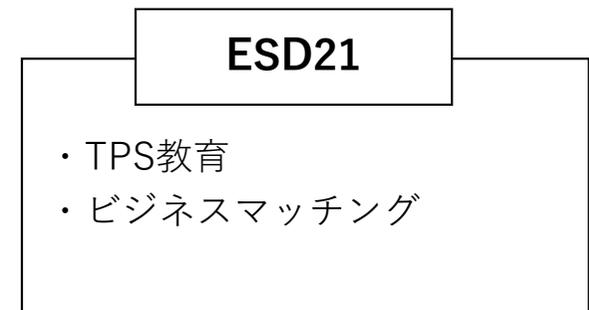
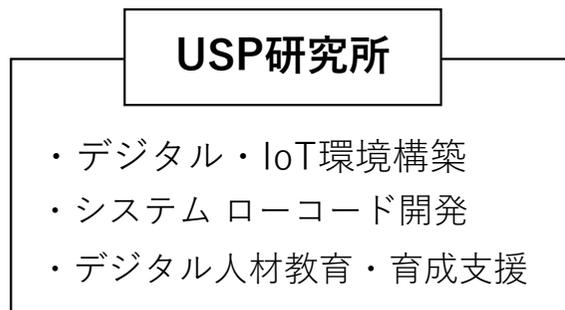
「異常と正常」

- ・目的・出口（結果）を意識した業務か。部分最適に陥っていないか。

DX推進体制



(外部伴走支援)



DX推進計画

当社は「協和DXビジョン」を実現するために以下のステップに取り組み改革を推進しています

DXにより目指すところ

- ・企業競争力向上
- ・変革への対応力
- ・高い技術と柔軟性



企業競争力

活動のキーワード

- ・リードタイム
- ・リアルタイム
- ・異常と正常

STEP1-1
現状課題共有
TPS・カイゼン



- 業務の棚卸（異常と正常の見極め）
- 標準化（属人化排除）
- 機能しない事はやめる！
- 価値を生まない事はやめる！

STEP1-2
デジタル化・自動化への対応
IoT・見える化



- データコード統一・データ一元管理
- USPユニタージの導入
- IoT導入によるリアルタイムデータ収集
- 現場・拠点間での計画実績見える化
- 個別原価算定・部門別採算しくみづくり

STEP2
全社員の意識改革
データとデジタル化で
カイゼンを加速



- 見える化されたものの活用アプローチ
- あ4会合での人材育成
- 全体見える化のための整流化・継続改善
- IT人材の育成とシステム更新等の内製化

STEP3
全体最適への対応



- 戦略的原価システム構築
- リアルタイムな経営判断
- 収益力向上
- 営業支援・販売予測
- 三つの開発の強化・迅速化
- 品質のリアルタイム保証
- コスト削減
- リードタイム短縮
- 海外工場への展開

全体最適を目指した
回り続ける改善サイクル

DX人材育成

成果指標

「協和DXビジョン」実現の成果指標は以下の3項目とします

推進項目	狙い	成果指標 KPI
戦略的原価システム構築	リアルタイムに取得する製造実績情報からリアルタイムな部門原価、個別品番原価を把握し、データドリブン経営を実現する	原価捕捉率 90%以上
総労働時間削減	デジタル化・見える化により業務の効率化を図り、総労働時間を削減する事で、働き方の多様化・働き方改革を実現する	前年比3% 以上削減
デジタル人材育成	全体最適化を理解しUSPユニケージを扱える人材を育成し、DXをスピード感を持って推進できる体制を構築する	全社員10% 以上